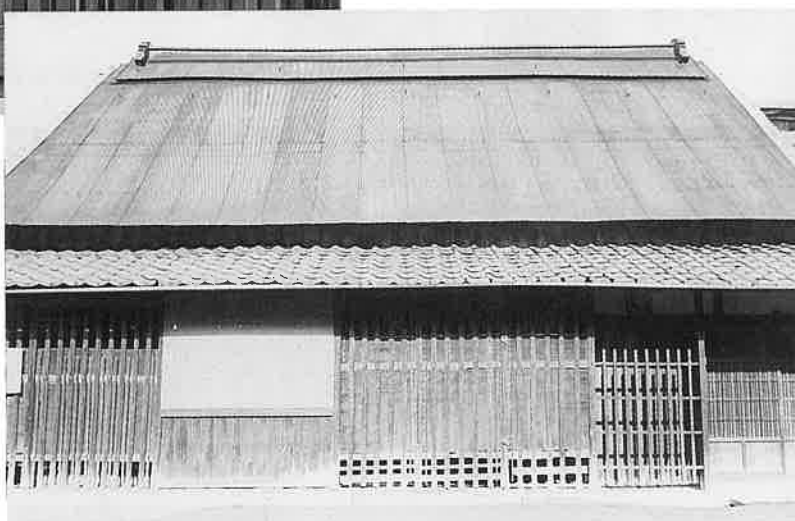


# ならまち今確かな時を見る -格子の魅力-

時代と共に変わりゆく奈良町の中で  
現在、生活にとけこみいきづく町家。



格子が次第に絶滅しつつあるのは、ガラスの登場からです。

格子は光と風を通すものですが、これは御存知のように、いくら細かく、また裏に竹簾をかけても暗い方から明るい方は見えるのです。昼間は中から表の動きがうかがえます。夜は障子や無双、蔀戸が無ければ、表から中の動きがうかがえます。

では、透かすものとして、格子とガラスの違いはなにか。一言で言って気配の透かし方の違いです。板ガラスが、はじめてヨーロッパにあらわれた時、『光を通す壁』というキャッチフレーズが使われたといいます。

建築空間についてのエッセイの多い、谷崎潤一郎氏も、格子のことについては余りふれていないのですが、『都市情景』というエッセイの中に、こんな数行があります。

『夜になれば家の中の明りが鮮やかな格子の影を地に印した。

凍てた霜夜の新内流しや、冴えた下駄の音、……新内流しはとに角として、

あの下駄の音は、どうして近ごろ聞こえなくなってしまったのだろう……』

格子の世界はガラスとコンクリートの壁という世界と異なる地平のものなのです。内と外を完全には隔離しない世界なのです。

新しい建築や都市空間の地平を考える時、格子の世界は非常に刺激のあるものではないでしょうか。

●なら・町家研究会

トリエンナーレ奈良 1995



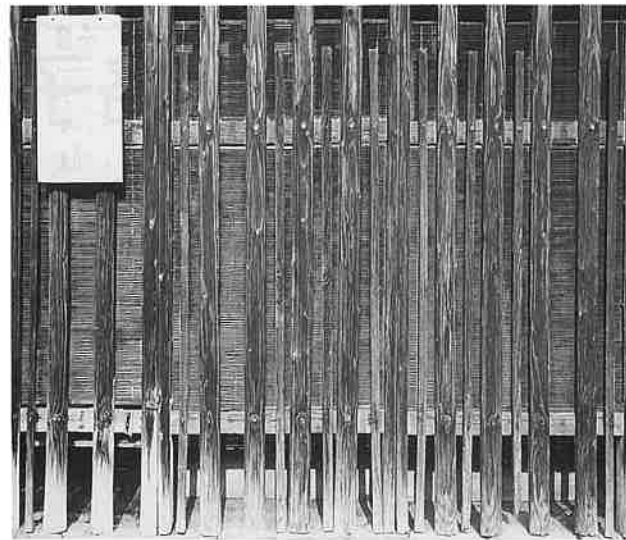
## 法蓮格子 (丸太格子・鹿格子)

法蓮という地名のつく丸太格子は、奈良近郊独特のものである。

奈良の格子は、今井町、郡山も含め、京都と異なり、古い型の太い台格子（建具化されず、建物に固定されたもの）が多く残っているのが特色である。

中でも、この法蓮格子は、町家型農家の法蓮町のほとんどがこの型であったため、地名を冠せられ、独特の素朴な姿を残している。杉や桧を半割にし、門（かど）に面する縁側の桁と縁葛（えんかずら）に固定した構造をとる。縁の内側には障子が入るが、格子のすぐ裏には、竹簾を吊し、視界を調整する。

山田熊夫氏の奈良町風土記によると、江戸時代には、各町に鹿を追い込み（当時の町境には柵があった）そこで角を切るならわしとなっていたので、鹿にきずをつけないように工夫されたということから鹿格子とも呼ばれたと言う。



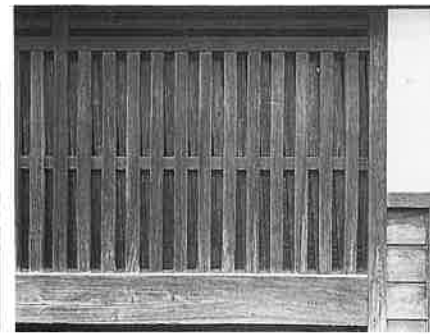
法蓮格子



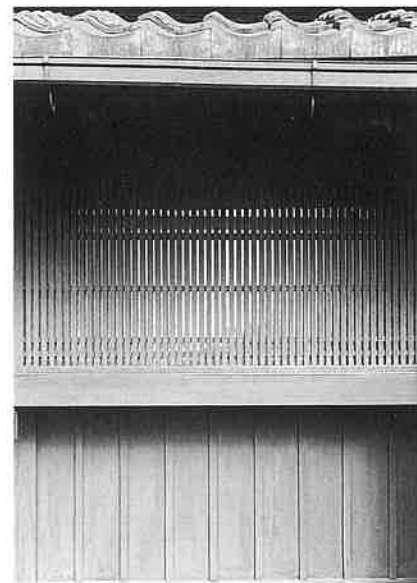
見張り格子



糸屋格子



酒屋格子（無双格子）



## 京格子

桃山時代より、堅挽きノコギリである大鋸（おが）と台鉋（だいかんな）が広く使われるようになり、細い堅子（たてこ）の子の一般化を助けた。

それまでの木材を楔（くさび）でひき割ったり、鉋（ちょうな）ではつたりしては太格子（木連格子・きつれごうし）は作れても、細い格子は難しかった。同時に建具として進んだ機能を持つようにもなった。

なかでも堅子を、こまがえし（堅子と堅子のすきまを堅子と同じ寸法に空けるならべ方をいう）や、それ以下に密にならべる千本格子（せんほんごうし）のようなものまで生みだした。

この新しい技術により、京格子は多様な意匠を生みだし、洗練された絋や縞の模様を建築の中に取り込むことになった。

町家の格子の歴史はおよそ室町時代頃からとされています。

平安時代末期の作と言われる年中行事絵巻には、町家らしき家にも全く描かれていません。

室町末期（16C）の京都の町を描いた洛中洛外図には、ほとんどの町家の表構えに、格子が描かれるようになります。

格子の姿が現在のように多用化し、洗練されていったのは江戸時代からとされています。

大鋸（おが）や台鉋（だいかんな）等の工具が一般化したことによります。

奈良の格子は、京風の繊細なものと取り入れてはいますが、太格子を多く残しているのが特色です。

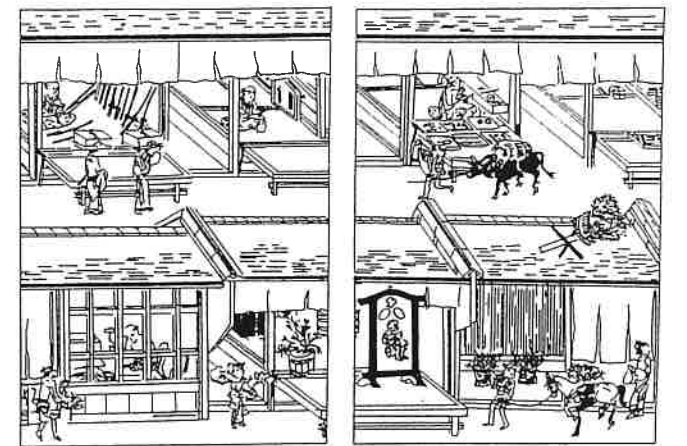
ここでひとつ、格子の奈良での歴史を、奈良を描いた絵図から見てみましょう。

延宝3年（1675）の南都名所集では奈良の名産店を描いていますが、（図1）あげ店の形式（この店の形は南城戸町の細川家で今も見ることができます。）に混じって格子の店が見られます。

また鳴川町の誕生堂の絵では、（図2）これは遊里が描かれていますが、あとで触れます木辻格子が描かれています。

このころ、一部に格子が使われだしたと考えられますが、まだ素朴なものです。

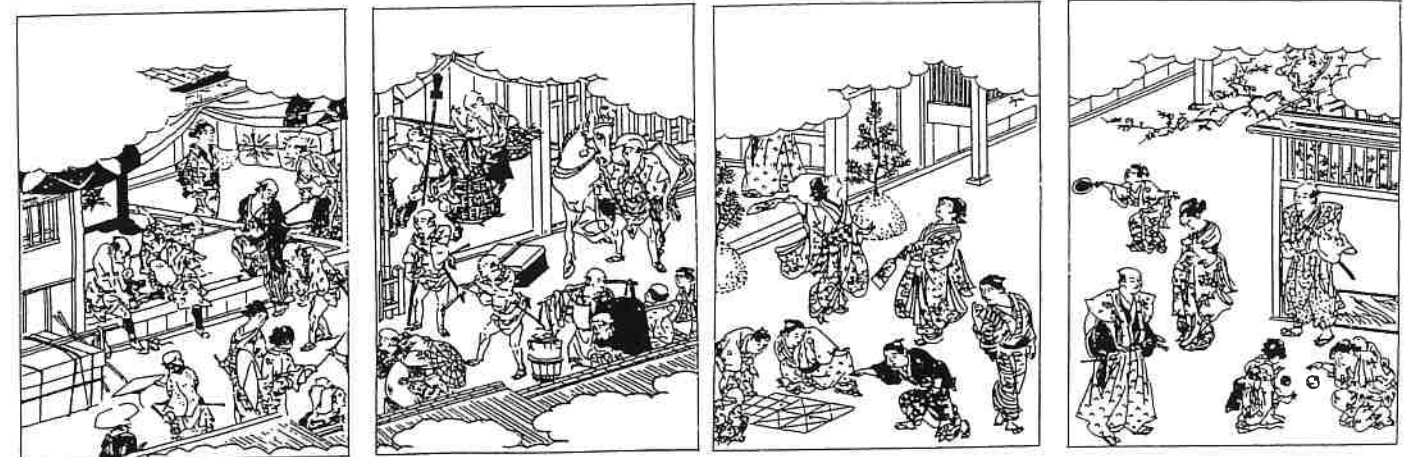
寛政3年（1791）の大和名所図会では、（図3）これは五條の賑わう旅宿を描いたもの、（図4）これは香具山の町屋らしきものを描いたもの、太格子、細格子、見張り格子等、現在と変わらぬ発達が伺われます。



(図1)



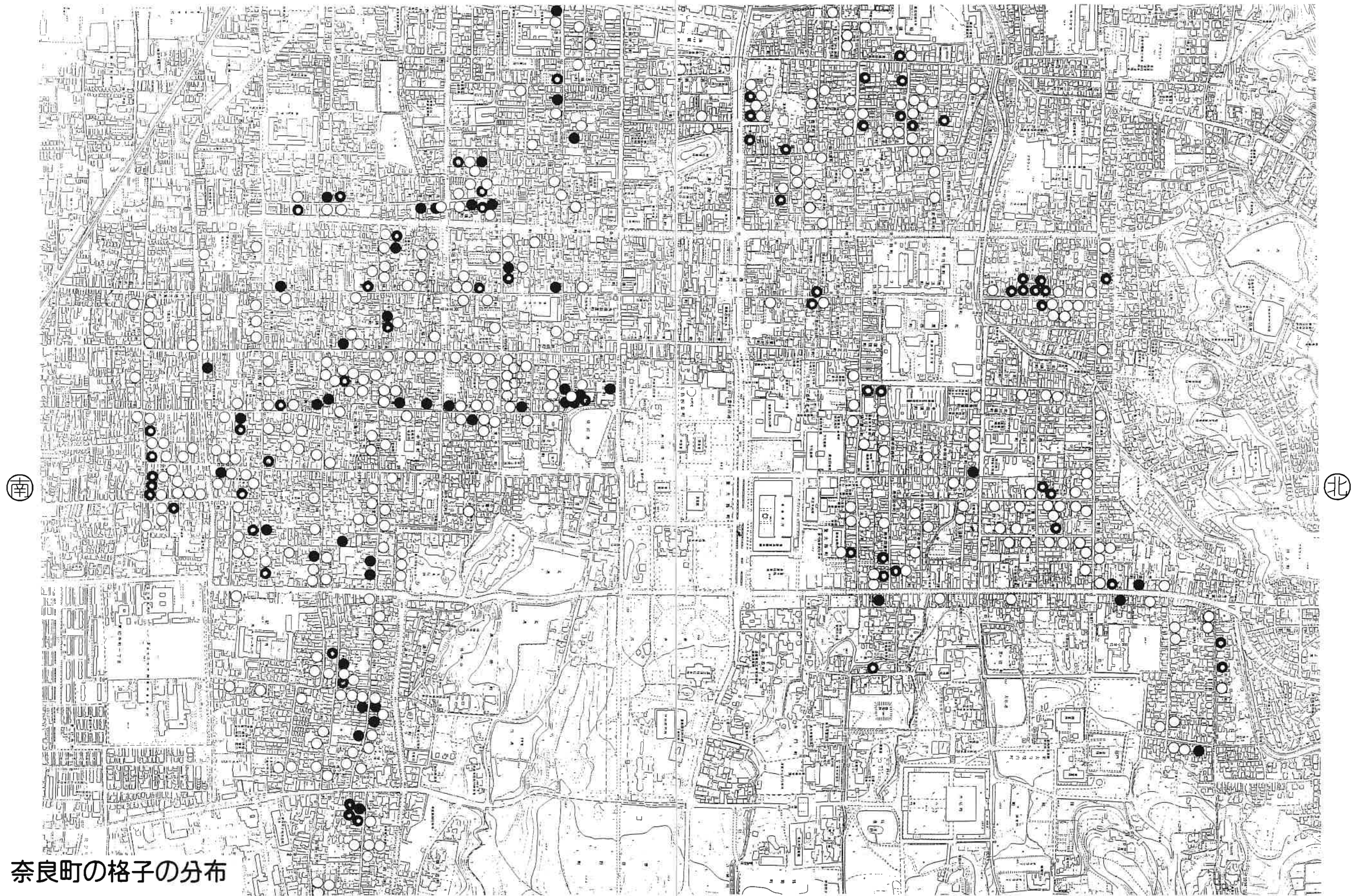
(図2)



(図3)

(図4)





## 奈良町の格子の分布

奈良町の祖形が出来たのは、江戸時代初頭（1604）といわれていますが、このころ同時に奈良晒という地場産業が爆発的に奈良の商工業を発達させます。それまで寺社の郷民の町であった奈良が、産業の町として、京、大坂、堺につぐ町として賑わいます。

奈良の町屋もこの頃から発展を見せると考えられます。

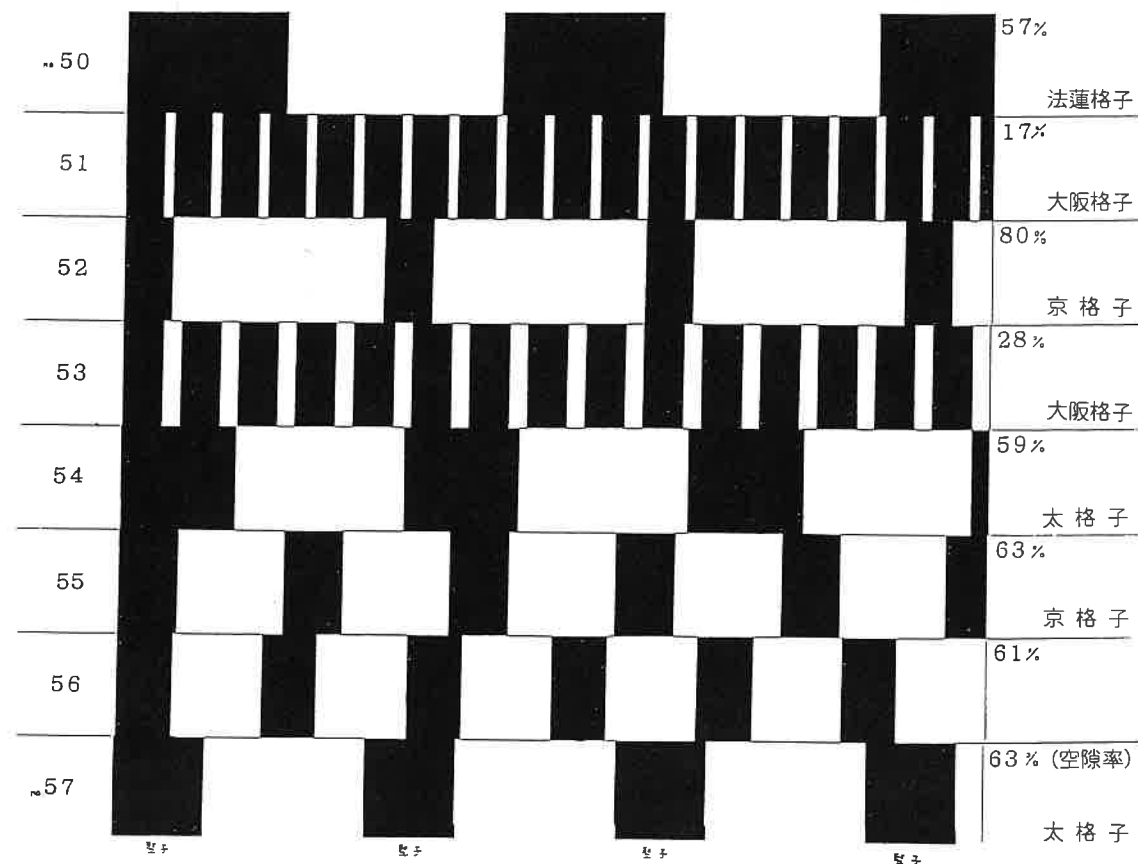
現在奈良町に残る格子を、奈良独特の法蓮格子、比較的古くから見られる太格子、建具化した京格子あるいは細格子の3つに分けて、地図にプロットしたのがこの図です。

法蓮格子は当時奈良回り8か村と呼ばれた、城戸、油坂、杉ヶ町、芝辻、法蓮、京終、

川上、野田村に分布していることがわかります。また芝辻や川上は宝永（1704）、宝暦（1762）等の大火に焼失していますが、まだ多く分布していることは、時代的なものより地域的、職能的な存在と考えて良いと思われます。

太格子では、酒屋、米屋等と職能的な分布がまず考えられますが、大火を何度も受けた北奈良町に、殆ど見られないのは、近世の建築技術の発達したなかでは建具化された格子を選択したという、時代的な分布の要因も考えることが出来ます。

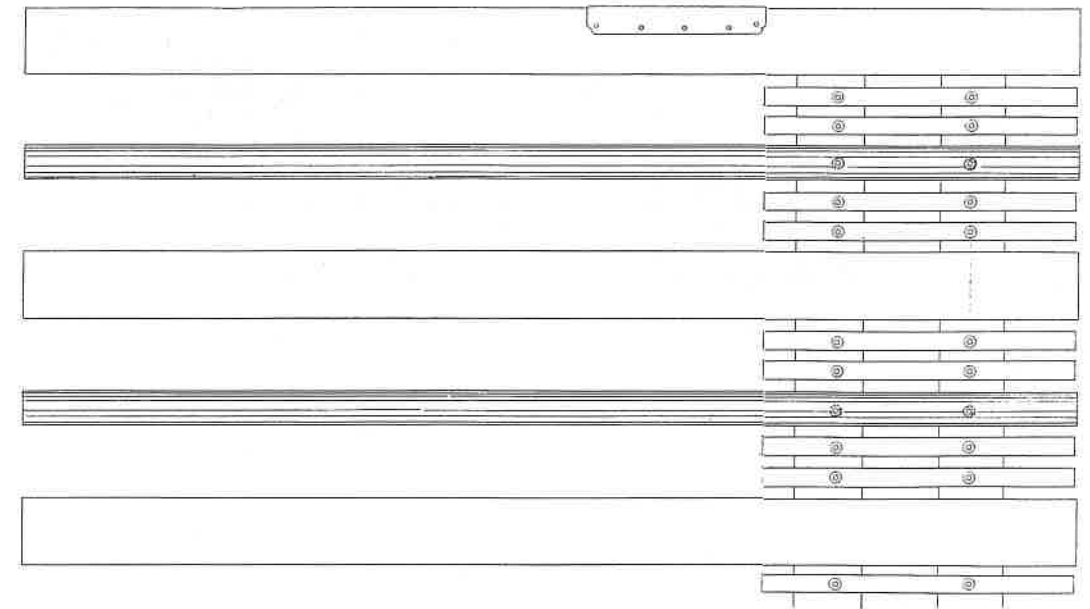
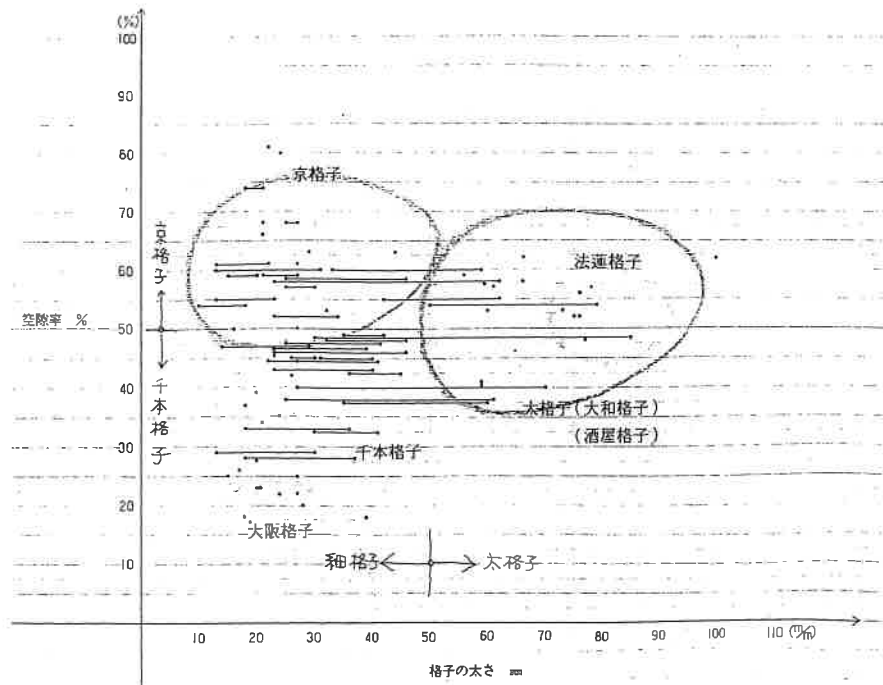
● 太格子      ○ 法蓮格子      ○ 京格子



奈良の格子は太格子も多用される分、京都に劣らず多用な展開を見せています。上のバーコードのような模様は、東城戸町の町屋の格子を実測し、原寸大で書きならべたもの。右側の数字は空隙率を表しています。

右のグラフは奈良町の格子を実測しプロットしたもの。2点を結ぶ線状になっているのは例えば42mmと24mmの親子格子を示しています。

20~70%くらいの間に分布し、格子の太さにかかわらず40~60%のものが多いことがわかります。この空隙率は光の透過率とほぼ等しくなっています。



## 木辻格子

室町時代から遊廓のあった木辻の地名をもつ木辻格子は、この町の置屋だけに見られる独特のもので、他の町家格子とその趣を異にしている。

構成は太い角の堅子の中央に丸の断面の細い堅子をいれ、さらにその間に小さい角堅子を2本いれ、貫は下方に吹き寄せに2本通し、菊の鉄座に勾欄鉋でとめるのを基本としている。

丸の堅子が八角形の断面のものもみられる。

今日、かつての置屋の名残りをとどめた建物は、木辻格子とともにほとんど姿を消してしまった。

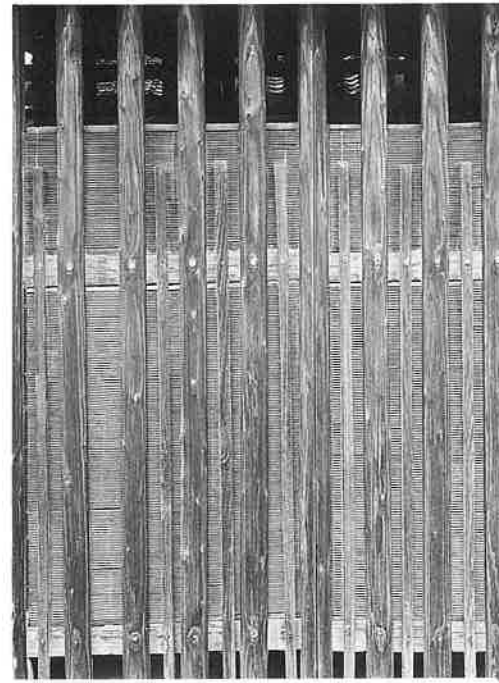
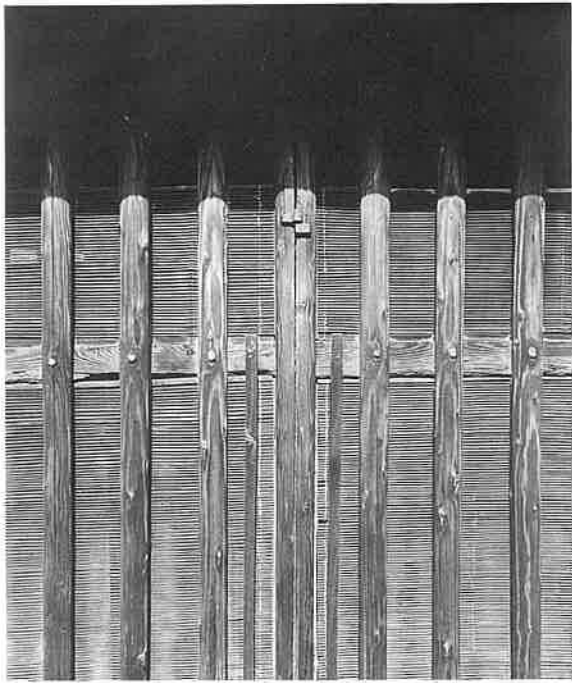
昭和51年、郷土史家山田熊夫氏は『奈良町風土記』で木辻の町について記述されている。その中に次の一節がある。

『昭和20年の終戦後は欧米の文化が移入され、人権の尊重、男女同権、自由平等が盛んに叫ばれ、特に女性の解放運動がもり上がり、昭和33年国会において公娼廃止が議決されたので、300有余年間傾城町として発展して来たこの木辻の町の置屋も3月15日を以て廃業となり、旅館、喫茶店、料亭に転じたが、大部分の家は普通の住家となり、特に木辻格子と呼ばれた特殊な構造をもった格子や、遊廓として一種かわった様式を備えた公娼部屋などもほとんどその姿を消し、木辻格子はわずかに称念寺の一隅に記念の品として残っているに過ぎず、これもかえり見る人もない状態となっている。』

幸にも、記述されている木辻格子が称念寺に保存されていたのがみつきり、実物を展示することが出来た。

呼び名の割には、今やその姿は人の記憶の域を出なかった格子だけに、貴重な資料と言えるでしょう。

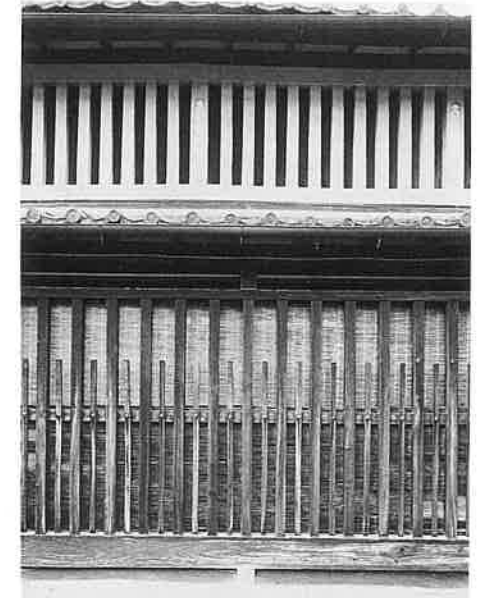




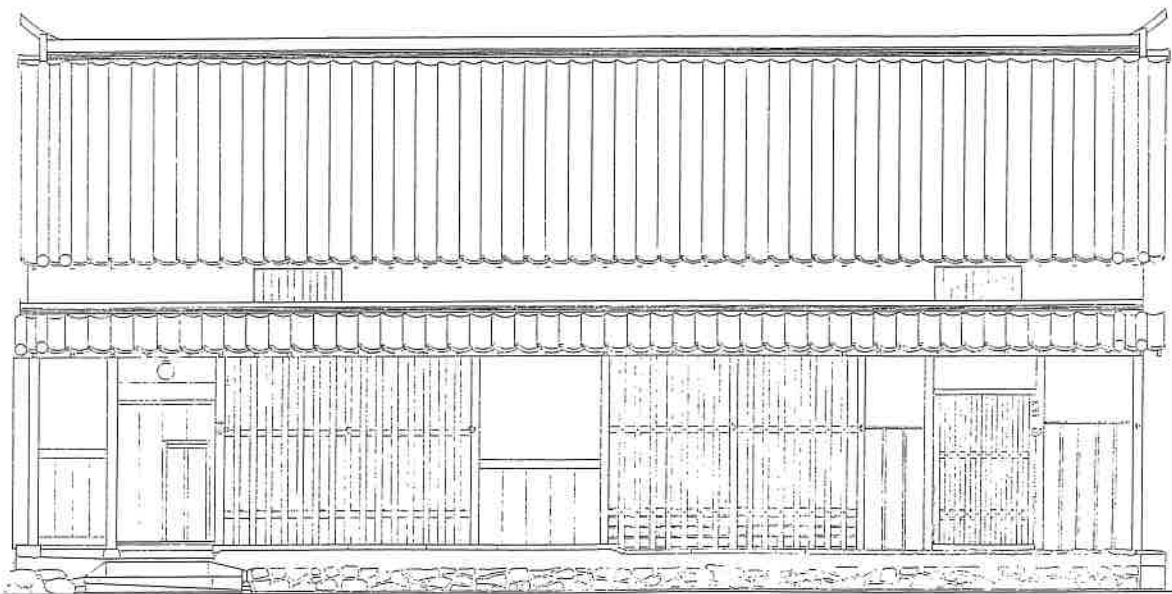
法蓮格子



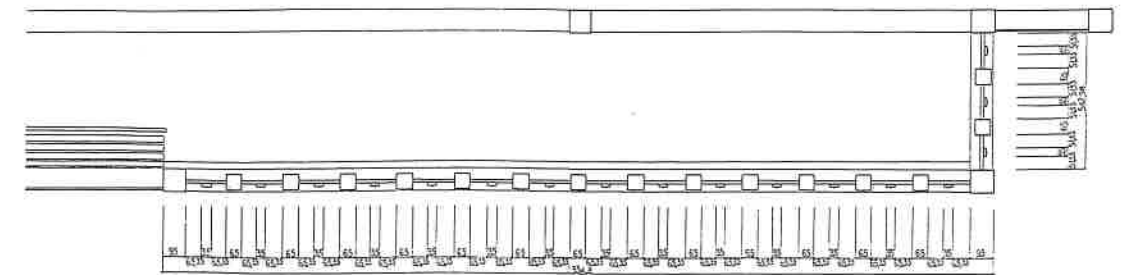
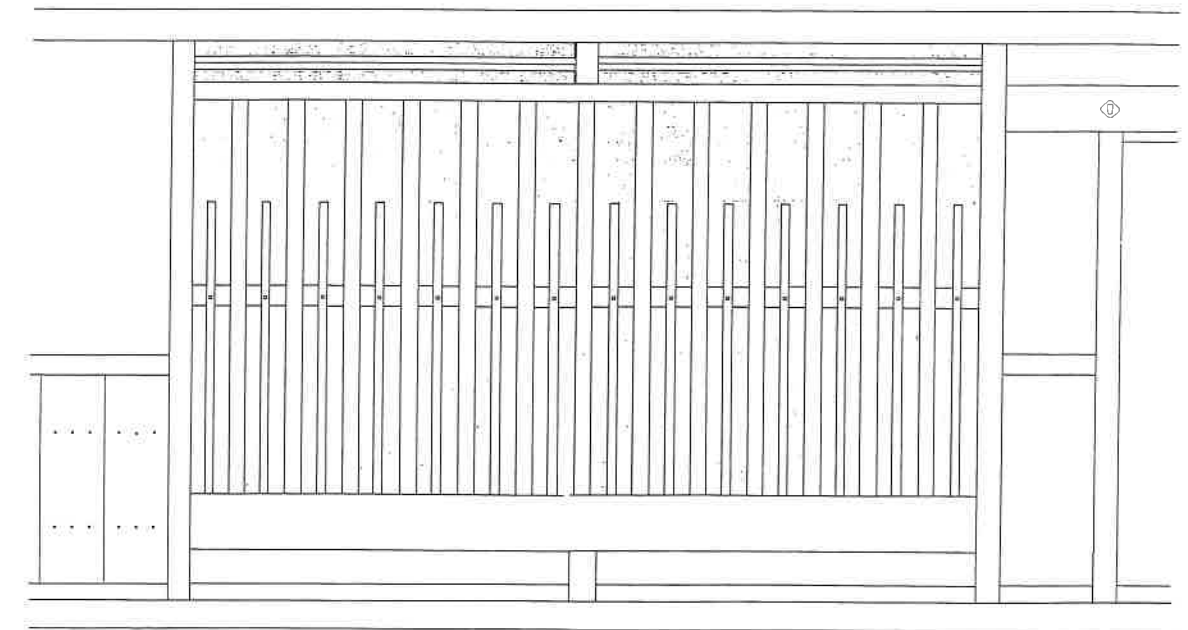
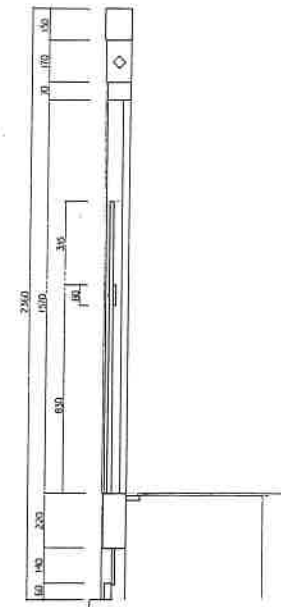
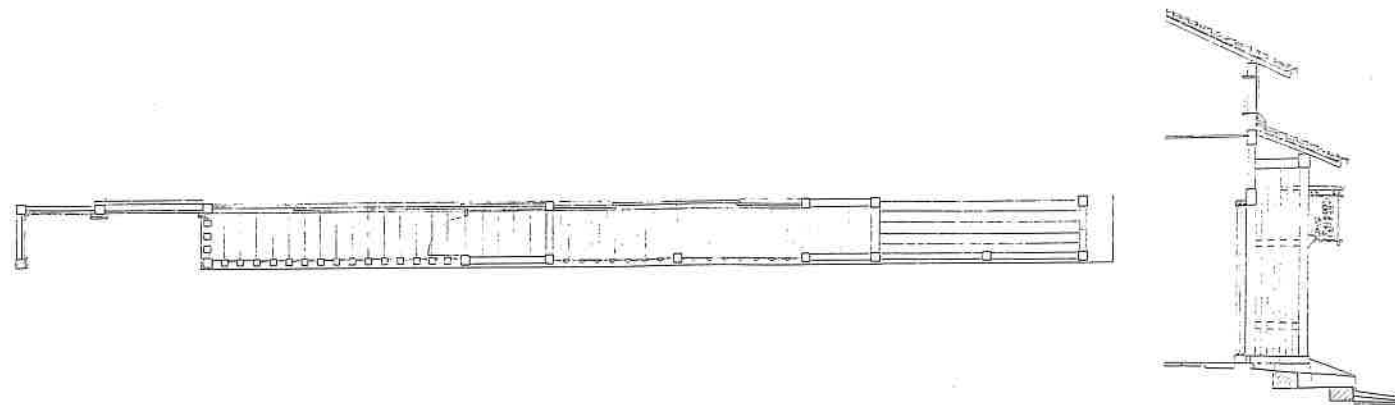
陰陽町の町家



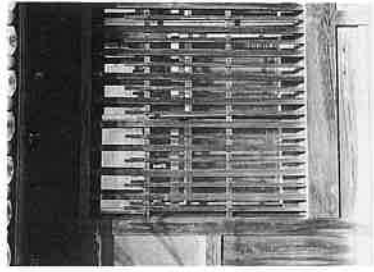
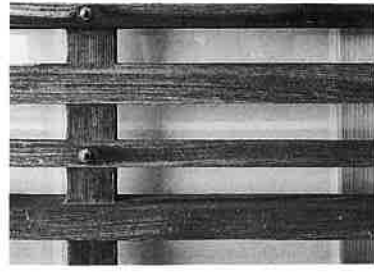
太格子



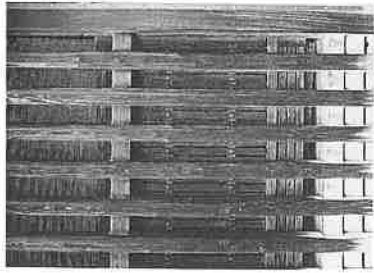
阪新屋の町家



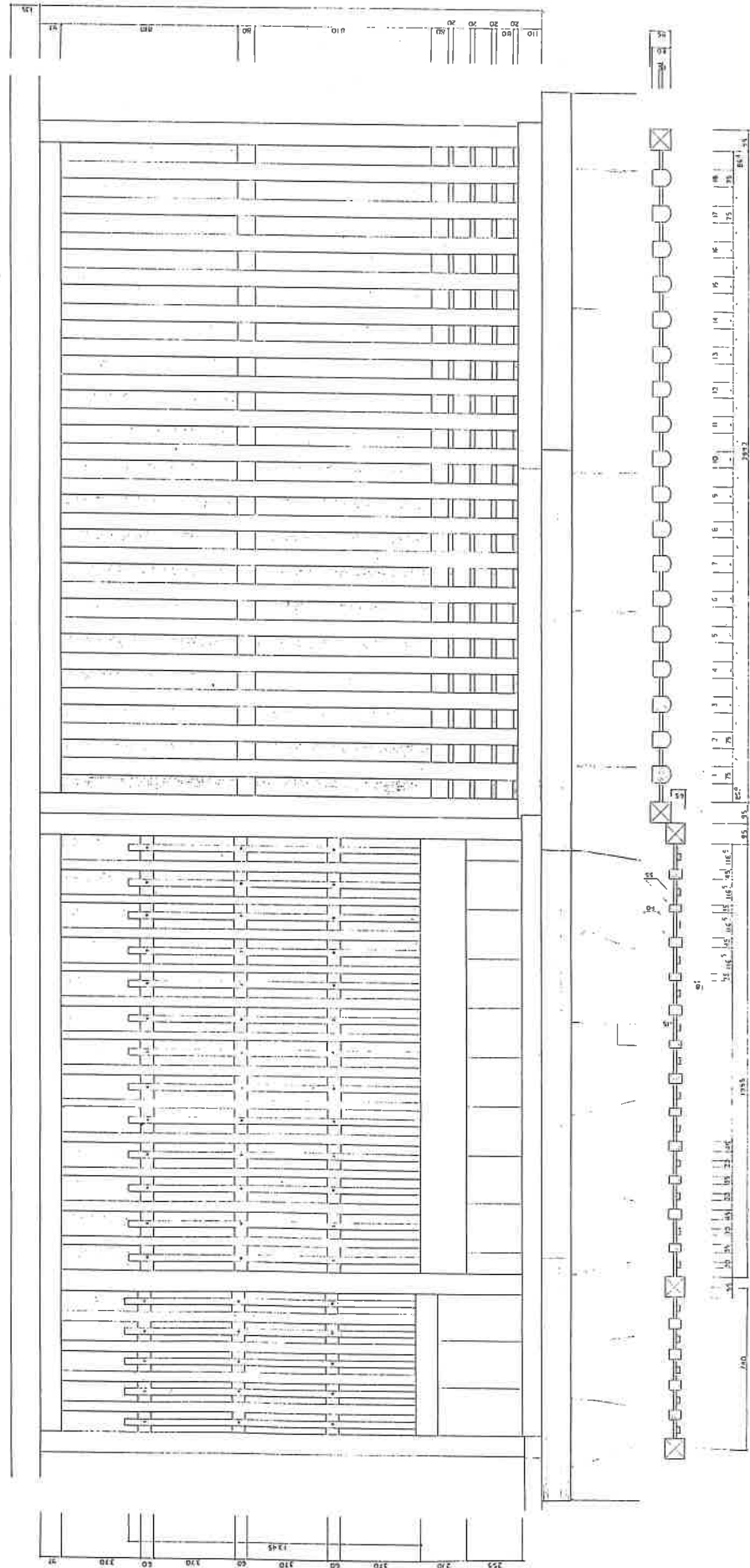
格子のディテール



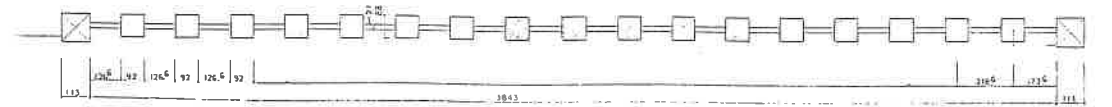
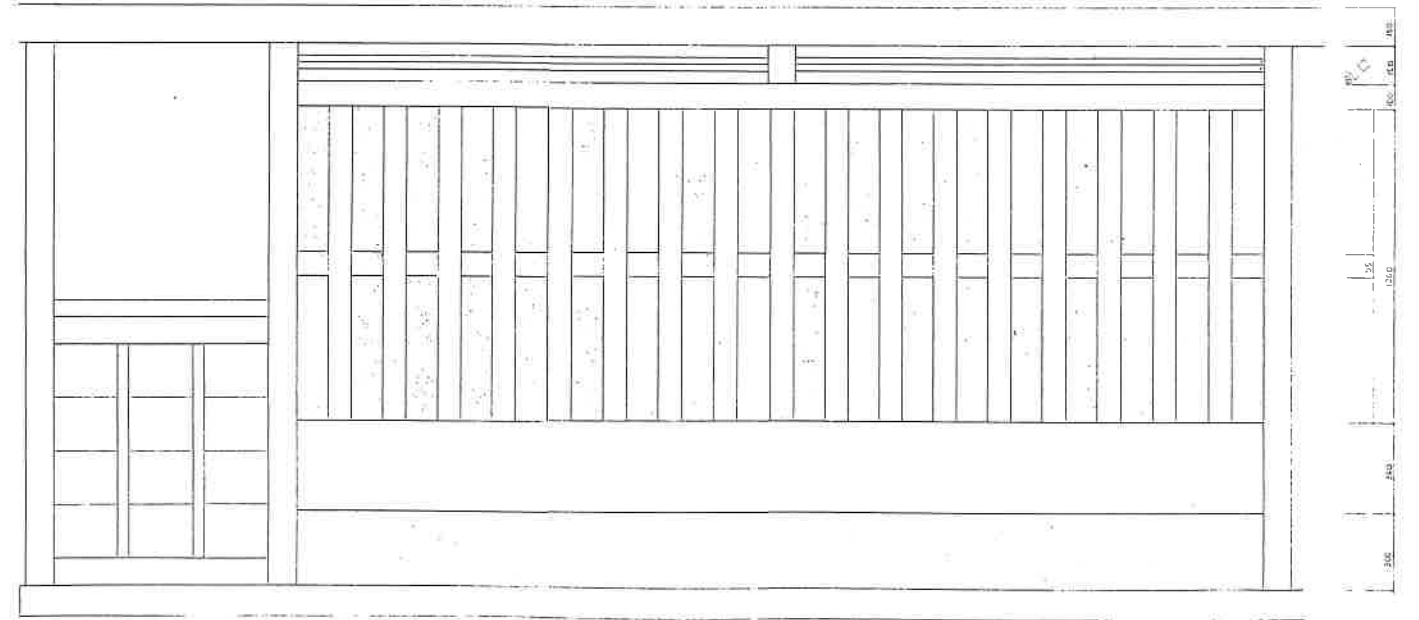
太格子



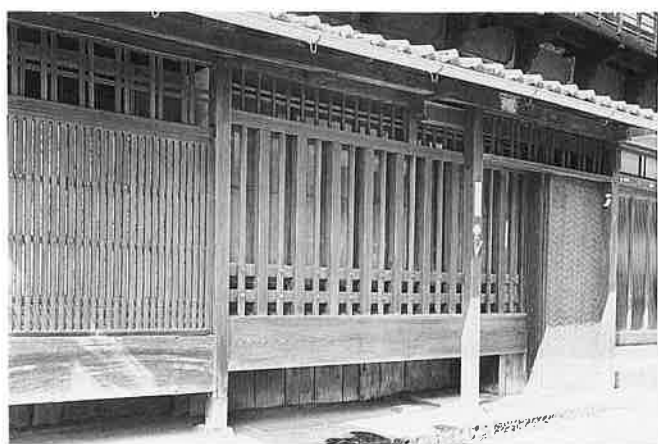
法蓮格子



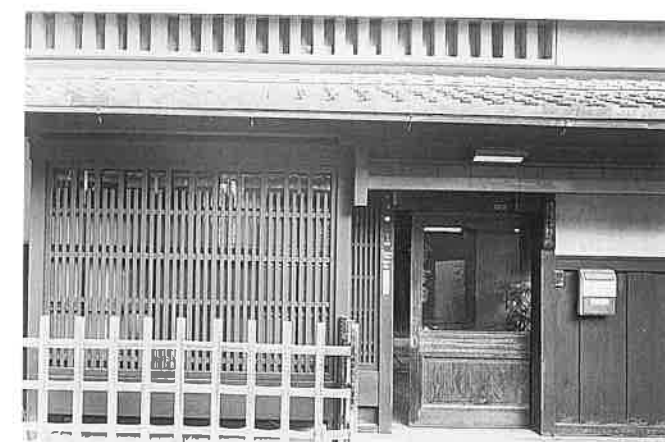
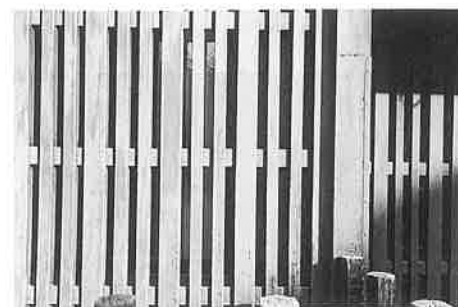
太格子 (酒屋格子)



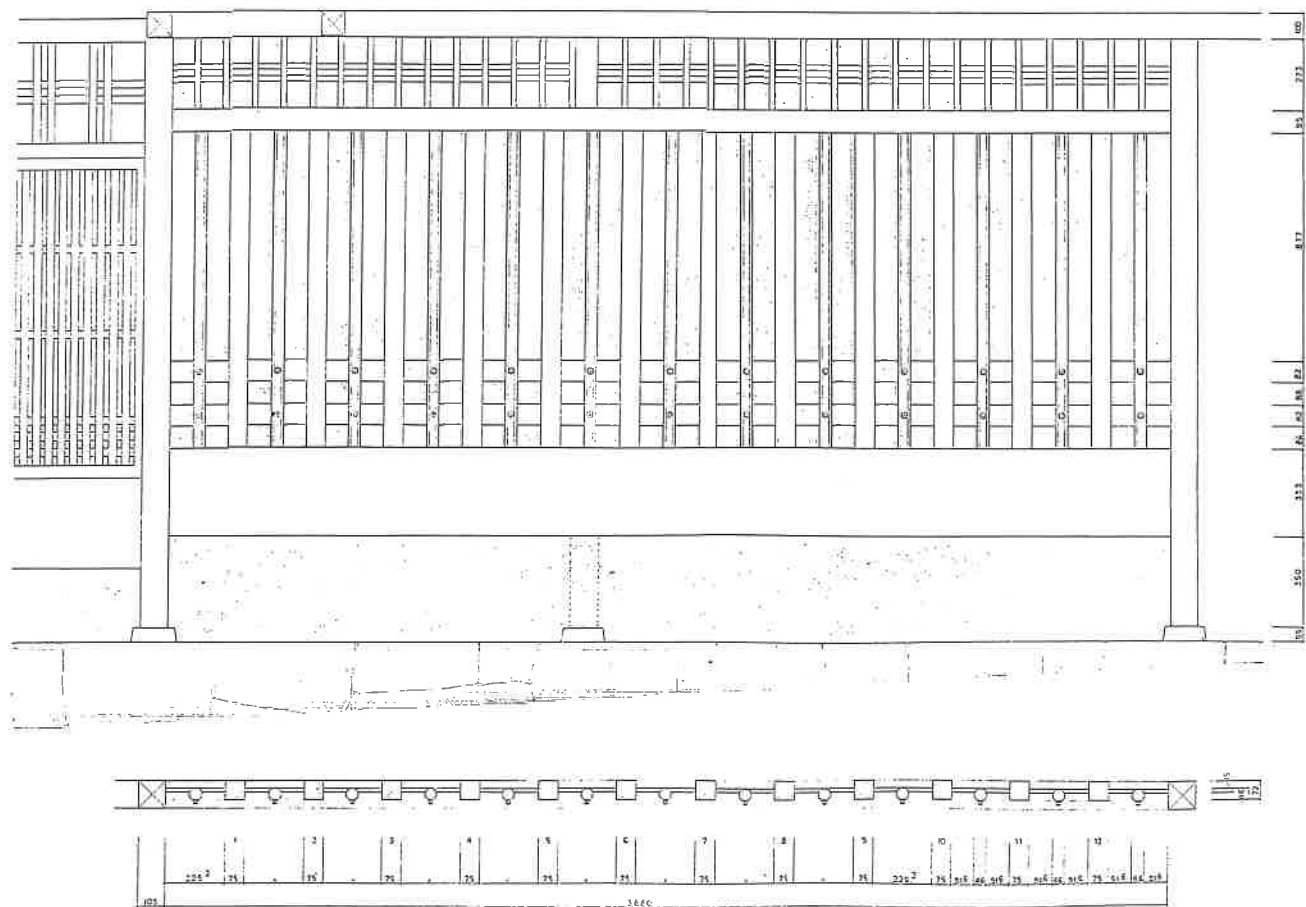
格子のディテール



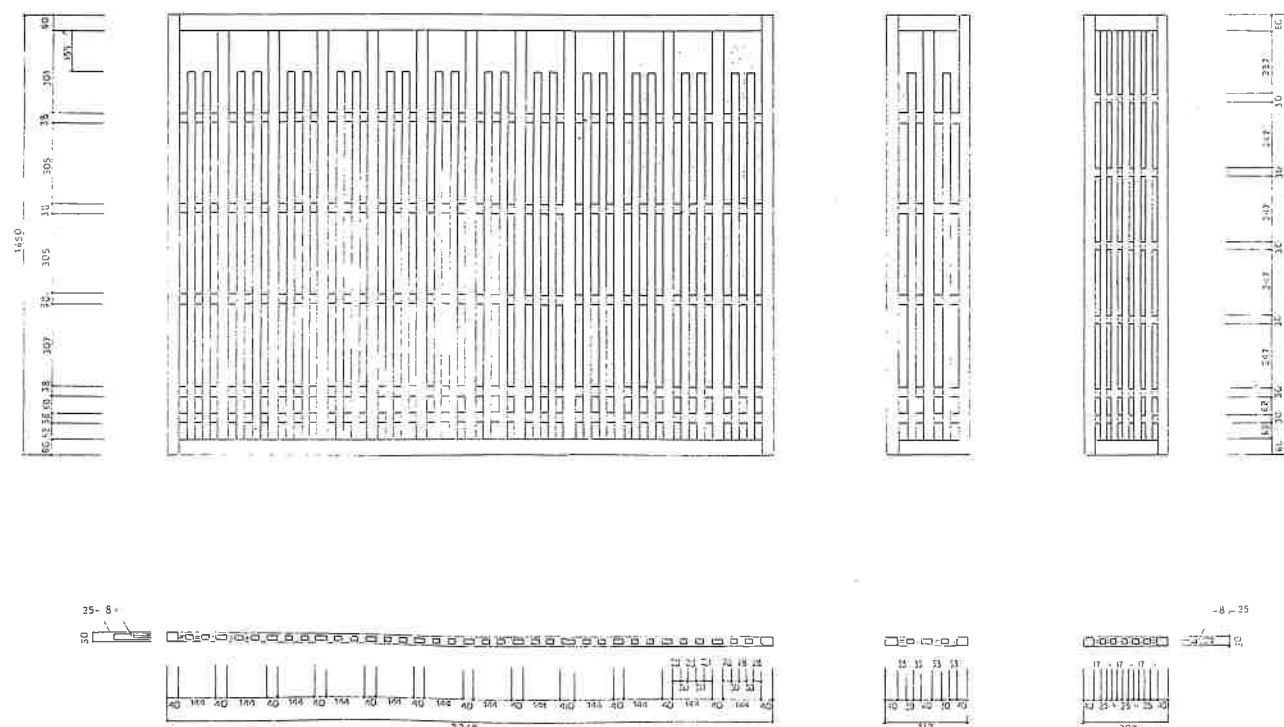
太格子 (木辻格子とも言われるもの)



京格子 (建具化されている)

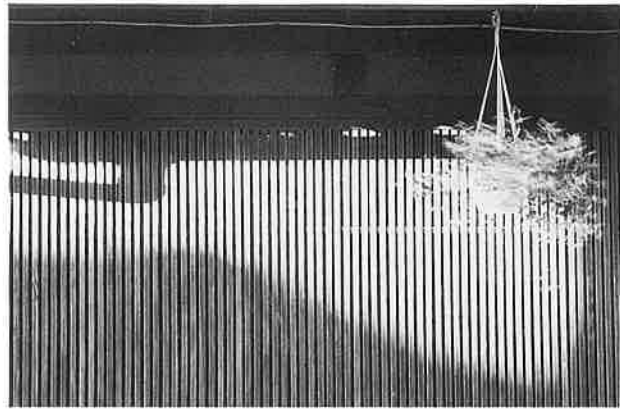


格子のディテール

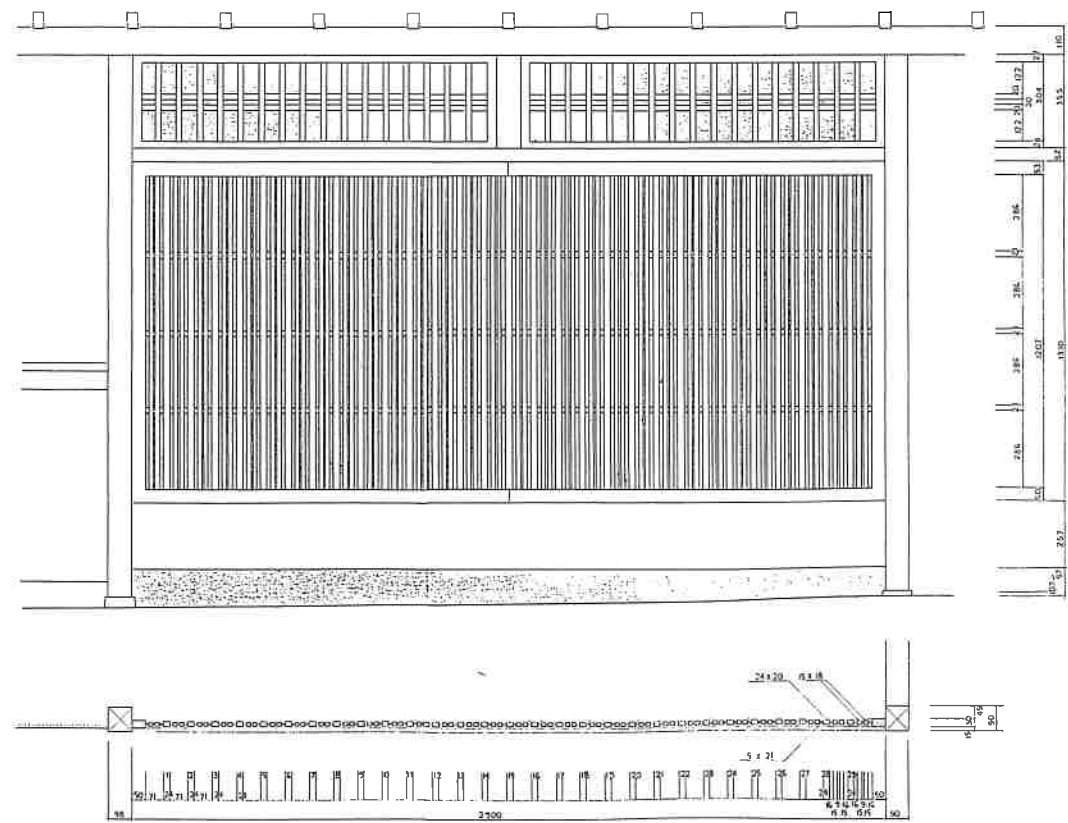
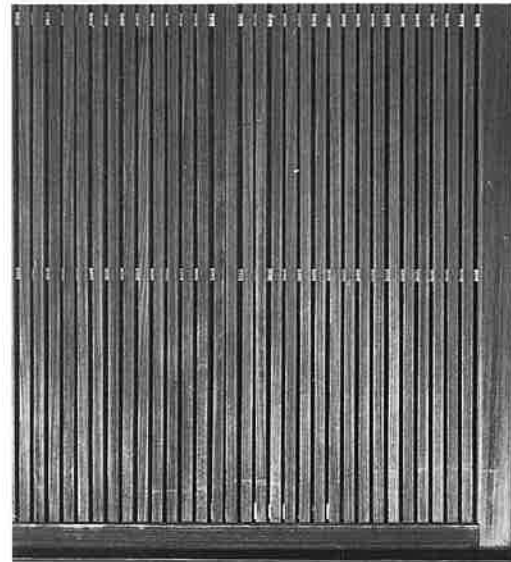


格子のディテール

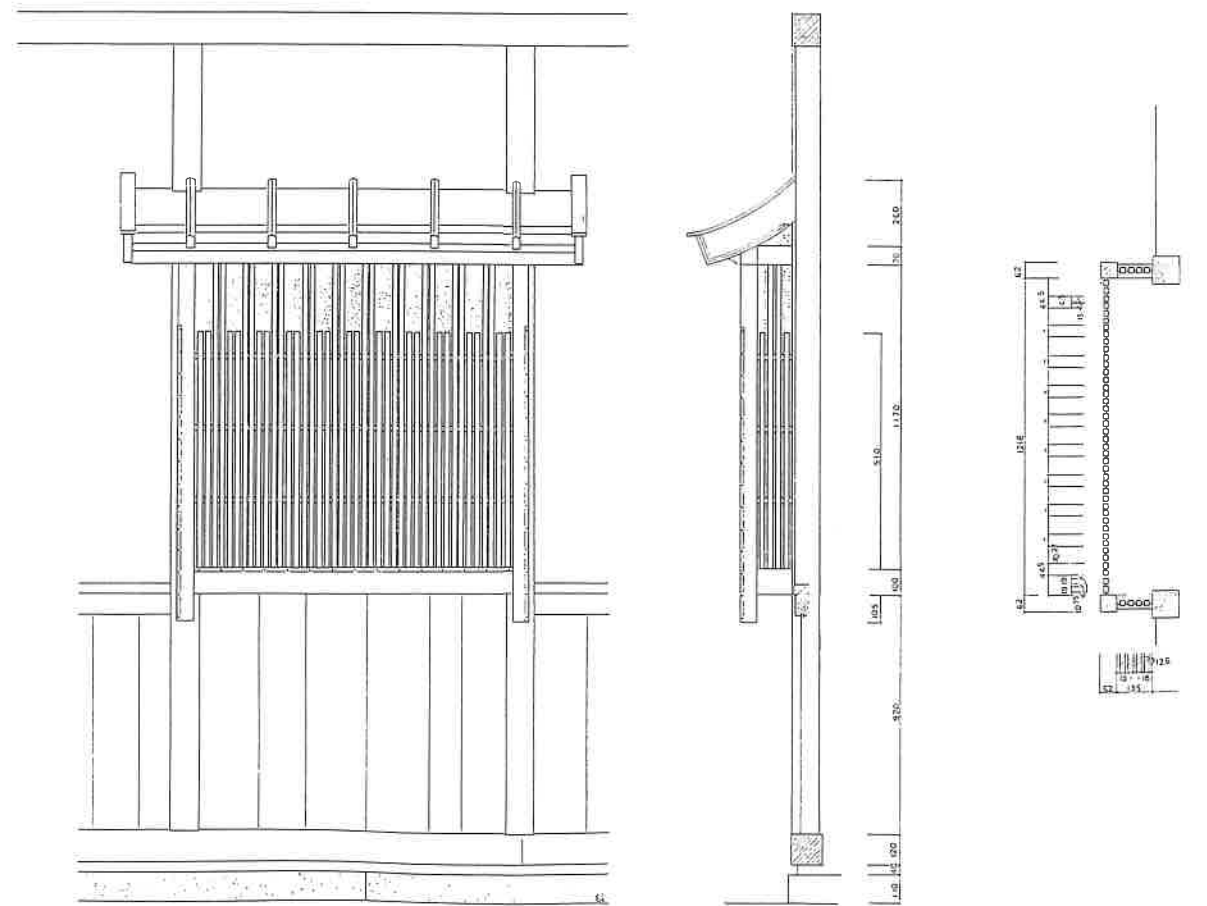
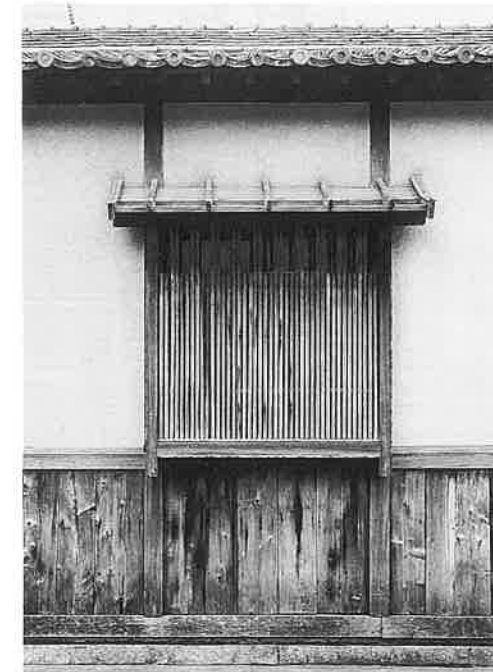




京格子

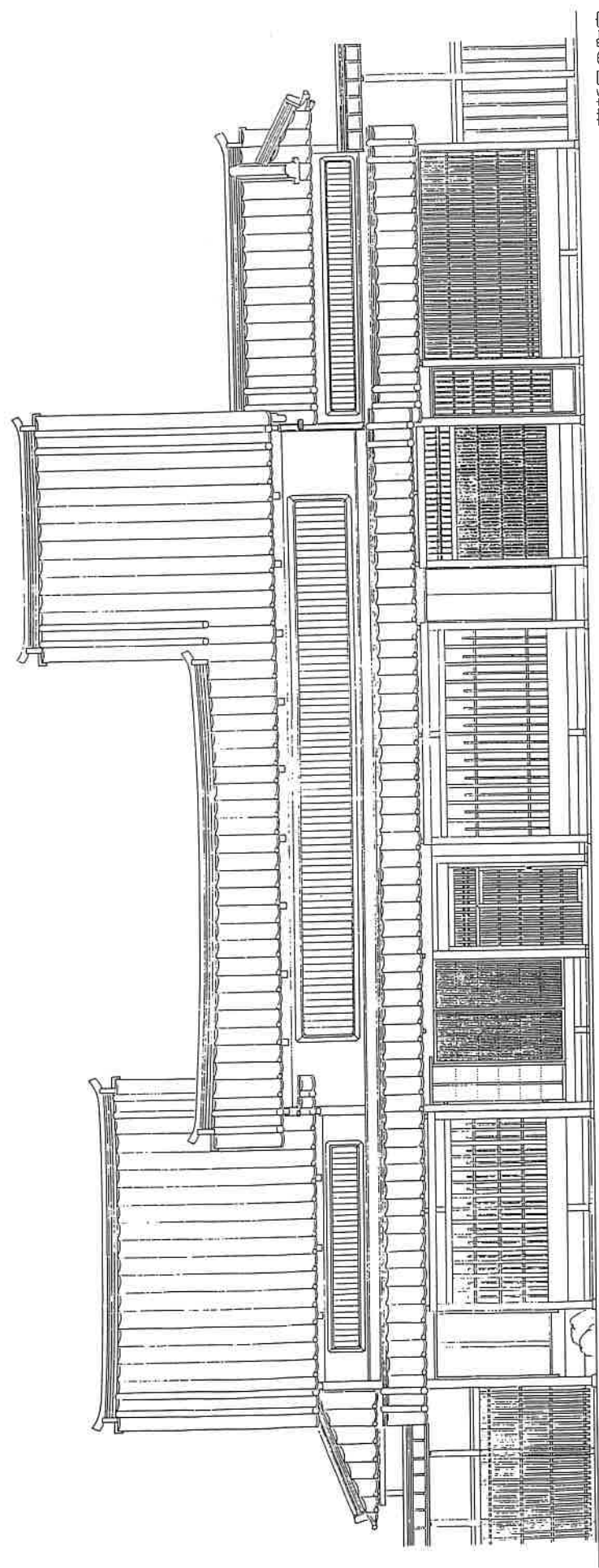


格子のディテール

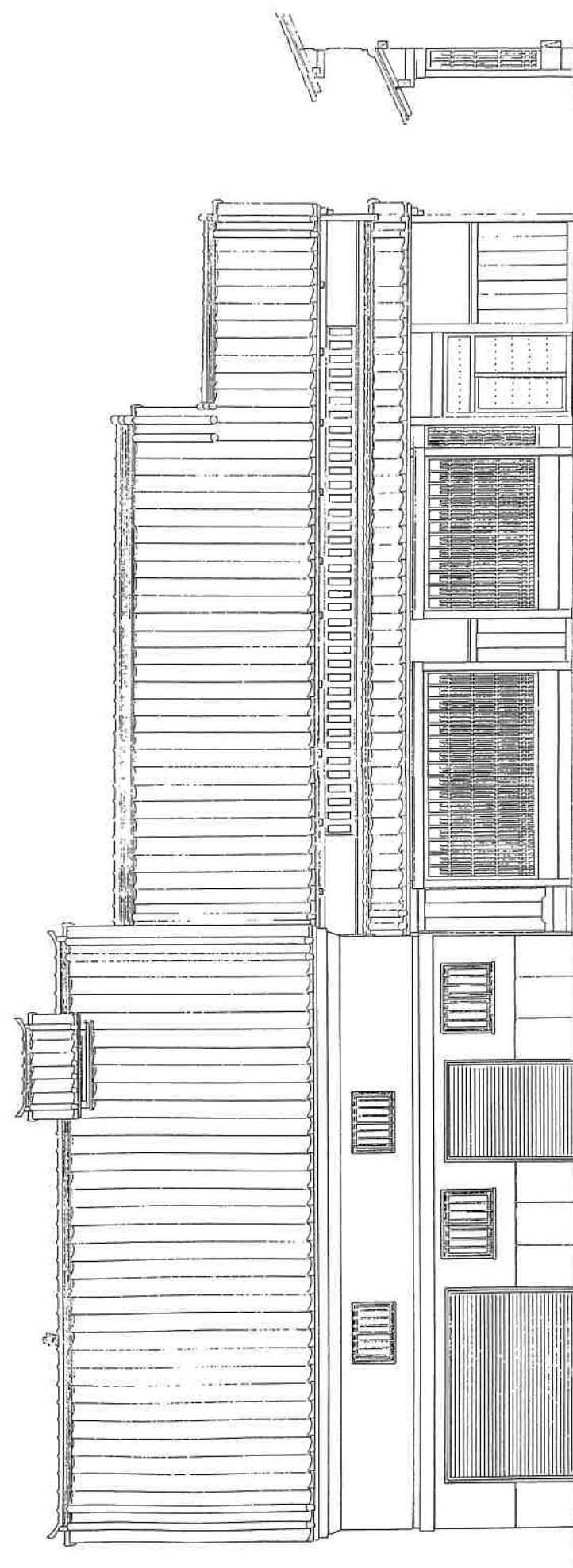


格子のディテール





芝新屋の町家



芝新屋の町家

## 参 考 文 献

- |                 |         |          |
|-----------------|---------|----------|
| 奈良市史            | 通史Ⅱ,Ⅲ   |          |
| 奈良市史            | 建築編     |          |
| 日本名所風俗図会(奈良の巻)  | 大和名所図会  | 角川書店     |
|                 | 南都名所集   |          |
|                 | 奈良名所八重桜 |          |
| 洛中洛外図           |         | 平凡社ギャラリー |
| 年中行事絵巻          |         | 角川書店     |
| 図説 木造建築事典〔基礎編〕  |         | 学芸出版社    |
| 日本の民家           |         | 学習研究社    |
| 物語 ものの建築史 窓のはなし |         | 鹿島出版社    |
| 結界の美            |         | 淡交新社     |

## なら・町家研究会

### 会 員

- |       |                  |
|-------|------------------|
| 秩父 治征 | アックス・ラボ―ー級建築士事務所 |
| 徳本 栄三 | E 建築設計事務所        |
| 藤岡 龍介 | 藤岡建築研究室          |
| 増田 明彦 | 増田設計室            |
| 吉川 和彦 | 吉川デザイン工房         |

### 協力会員

- |       |                  |
|-------|------------------|
| 北村 浩康 | 藤岡建築研究室          |
| 野理 啓子 | アックス・ラボ―ー級建築士事務所 |

## 事 務 局

藤岡建築研究室  
〒630 奈良市四條大路1丁目3-43 TEL 0742-34-8531